

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2020-005
2.研究課題名	frisson と ASMR の生起に関する音源の位置の効果
3.研究期間	令和2年7月31日～令和3年3月31日
4.研究の概要	<p>意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての的確に記すこと。） 我々は音や音楽を聞いている時に、様々な感情を抱き、心身の反応を示すことが知られている。その中で、今回の実験では frisson と ASMR（Autonomous Sensory Meridian Response）と呼ばれる現象を取り上げる。両方とも、聴覚刺激に対する自律神経系の反応で、いわゆるゾクゾク感（tingling）を伴う主観的な反応である。一方で、frisson は音楽を聴いた後に生じるが、ASMR は咀嚼音や水の流れる音などに対して生じる反応であることが知られている。さらに、ASMR は非覚醒なリラックスした情動経験であるが frisson は時に恐れや興奮など覚醒的な情動経験を伴うといった相違点も報告されている。このように、両者の関係性や区別は未だ曖昧であるため検討の余地がある。そこで本研究では、2つの現象を改めて整理することを目的とする。両現象の生起頻度やその強度に対する主観的報告に加え、前頭前野を標的とした脳活動測定を用いて、音源の位置による両現象への影響を検討する。脳活動計測には安全性が広く確認・保証されている島津製作所の光脳機能イメージング装置（NIRS：FOIRE-3000）を使用する。実験の所要時間は、実験手続きの説明から実験後の聞き取りまで含め約60分の予定である。</p> <p>方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 東北大学の大学生・大学院生計20名を予定し、実施担当者（大学院生）の口頭による募集を行う。聴覚に異常のないことを確認できれば、その他の要因に拘らず参加を依頼する。 近赤外光イメージング装置（NIRS：島津製作所 FOIRE-3000）を脳活動計測に用い、frisson の生起が期待される楽曲や ASMR の生起が期待される音声を聴取している時の脳活動（前頭前野）を測定する。また frisson と ASMR それぞれについてその生起強度や頻度の回答を求める。すべての情報は連結可能な形で匿名化される。なお、実験の参加に対し、謝礼の支払いはない。</p> <p>問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 文学研究科心理学研究室（022-795-6048） 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会事務局（教育学研究科総務企画係）（022-795-6103）</p>